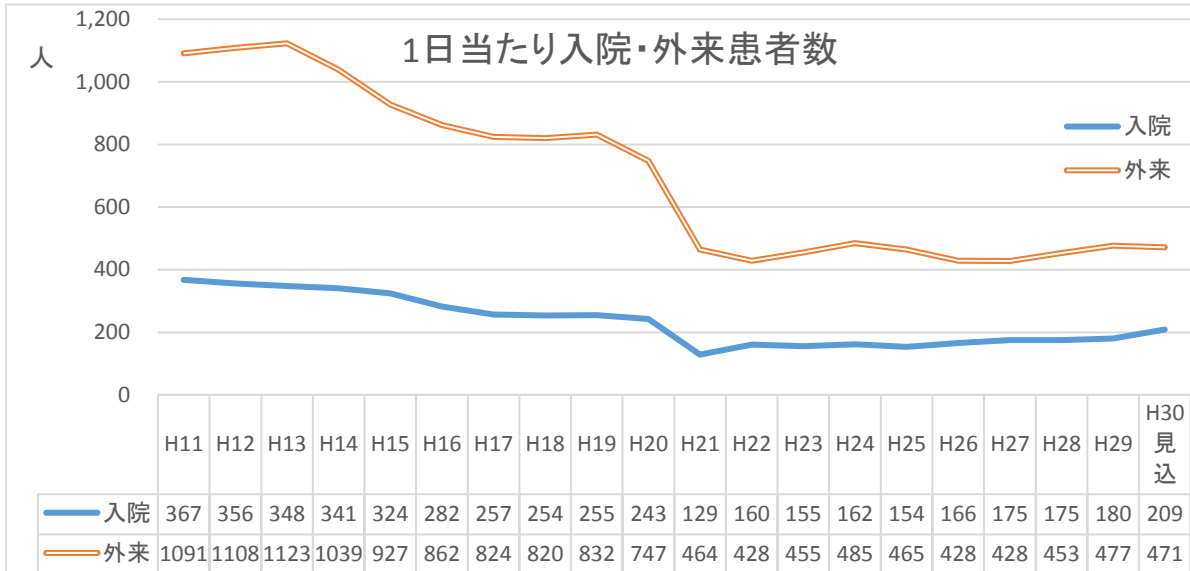


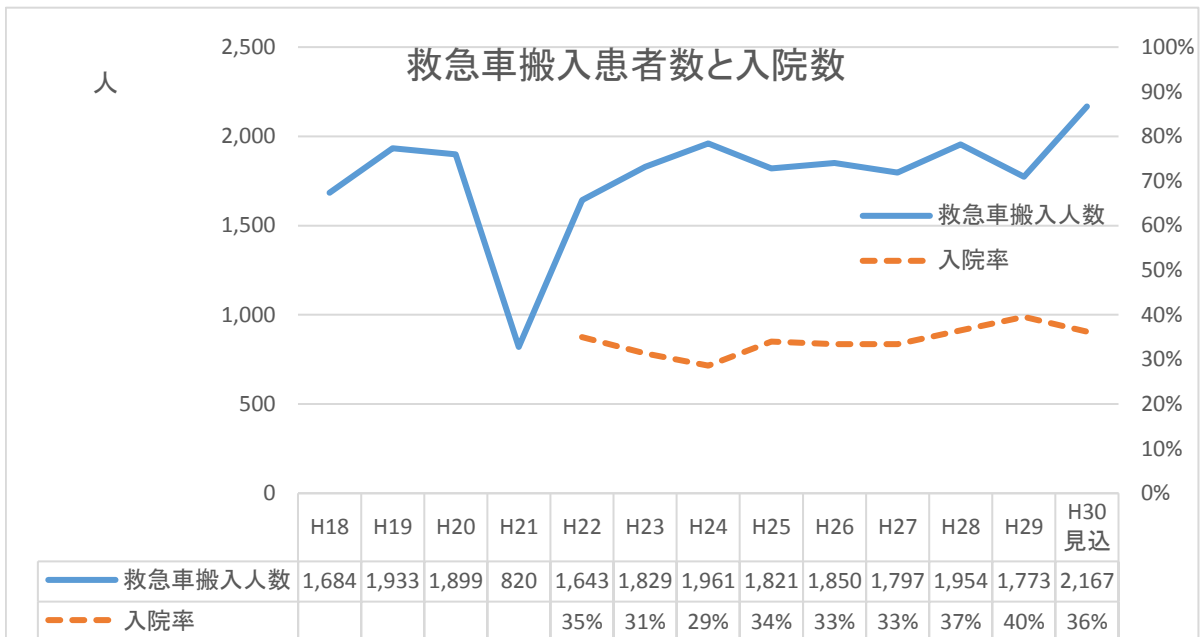
# 急性期病棟の再開について

(榛原総合病院 2018/12/18)

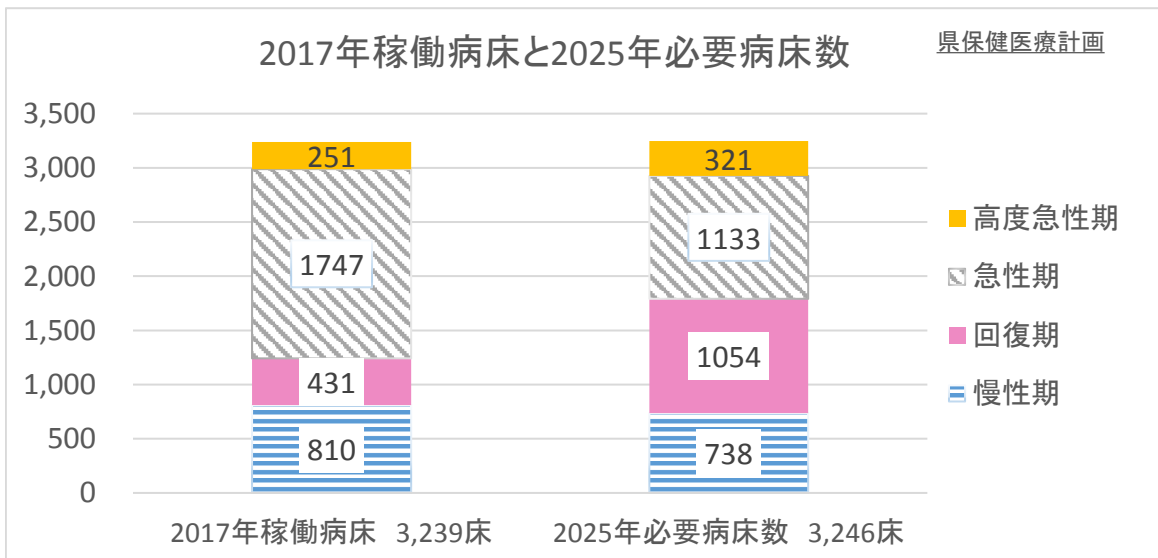
## 《現状説明》



◆平成22年3月に指定管理へ移行。入院はピーク時の6割、指定管理移行前の7割まで回復見込み



◆救急搬送人数は、指定管理移行前の件数を維持、本年は更に増加傾向



① 10万人当たり急性期必要病床数

【2018年現在】

	急性期病床数	人口	10万人当たり急性期病床数
牧之原・吉田	190	73,409	259



【2025年予測】

(床、人)

	急性期必要病床数	推定人口	10万人当たり急性期必要病床数
静岡県	9,084	3,506,064	259
志太榛原	1,133	436,801	259
牧之原・吉田	173	66,715	259

※当院の急性期稼働病床は150床。御前崎市(人口:32,829人)からの患者は減少していない。

<参考>

② 2025年 10万人当たり回復期(回復期リハビリ・地域包括ケア)必要病床数

	回復期必要病床数	推定人口	10万人当たり回復期必要病床数
静岡県	7,903	3,506,064	225
志太榛原	1,054	436,801	241
牧之原・吉田	161	66,715	241

※一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会によれば、10万人当たりの回復期リハビリ必要病床数を50床とし、すでに全国(63床)、県内(75床)とも達成済み。今後は、地域包括ケア病棟の開棟が必要。

※A病院回復期0床、当院35床 計35床 (126床不足)

③ 2025年 10万人当たり慢性期必要病床数

	慢性期必要病床数	推定人口	10万人当たり慢性期必要病床数
静岡県	6,437	3,506,064	184
志太榛原	738	436,801	169
牧之原・吉田	113	66,715	169

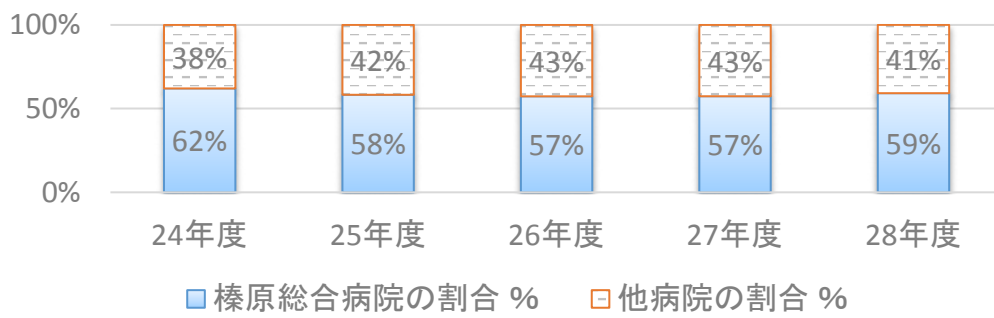
※A病院慢性期180床、当院42床 計222床 (109床過剰)

④ 2025年 10万人当たり必要病床数

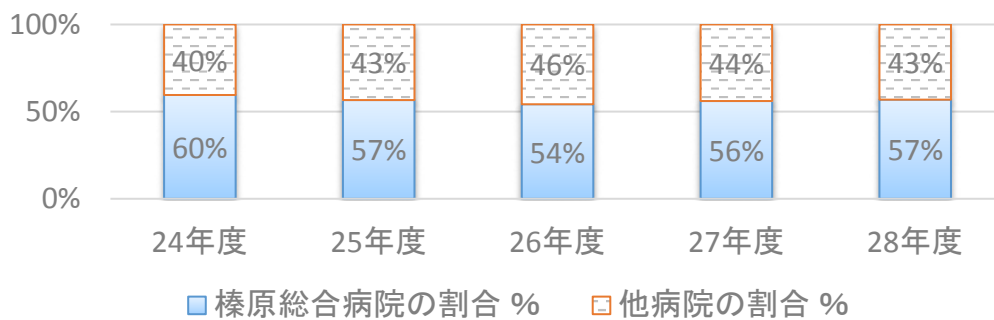
	必要病床数	推定人口	10万人当たり必要病床数
静岡県	26,584	3,506,064	758
志太榛原	3,246	436,801	743
牧之原・吉田	496	66,715	743

※A病院180床、当院227床 計407床 (89床不足)

### 構成市町住民の【一般入院】患者流出割合



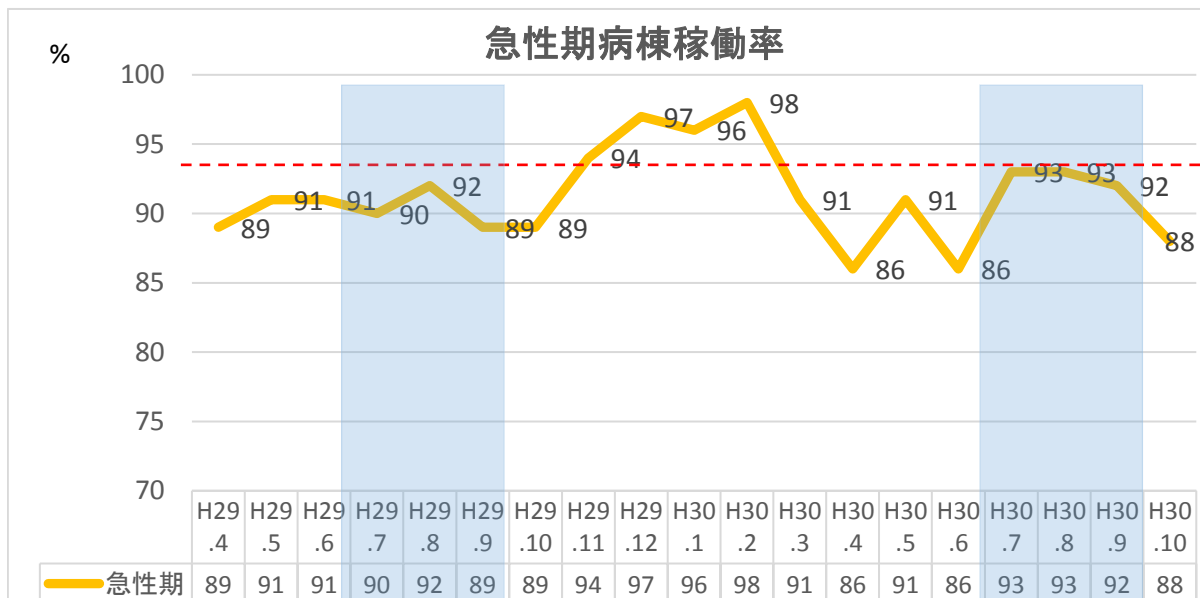
### 構成市町住民の【外来】延べ患者 割合



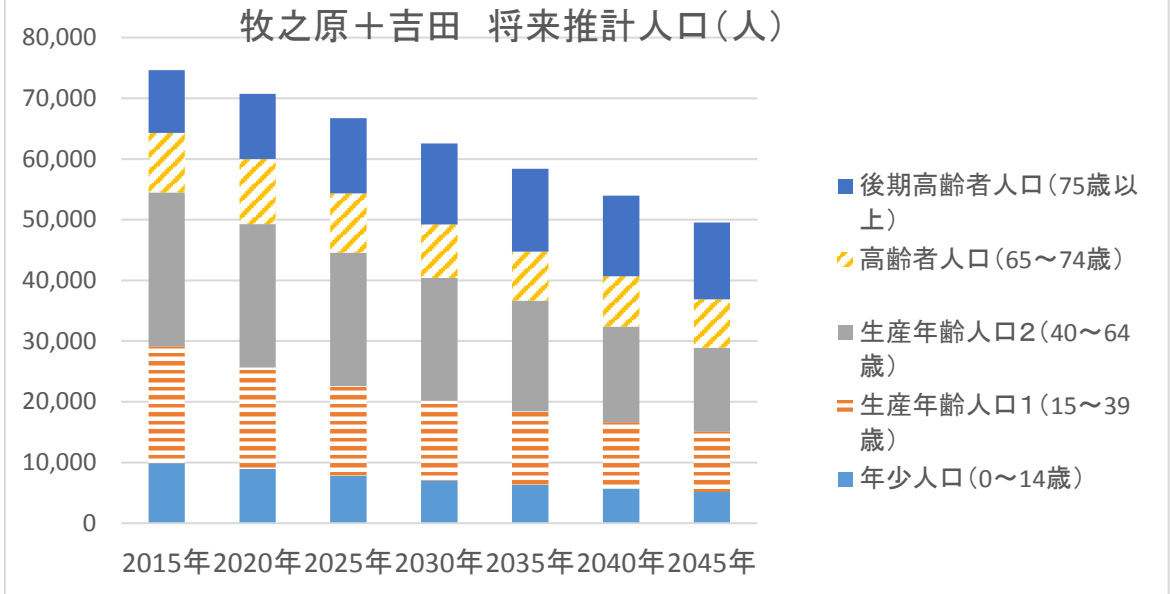
4割の患者が流出しているデータから試算すれば、

- ・現時点での急性期必要病床数は、 $190 \text{床} \times 0.6 = 114 \text{床}$
- ・2025年では、 $173 \text{床} \times 0.6 = 104 \text{床}$

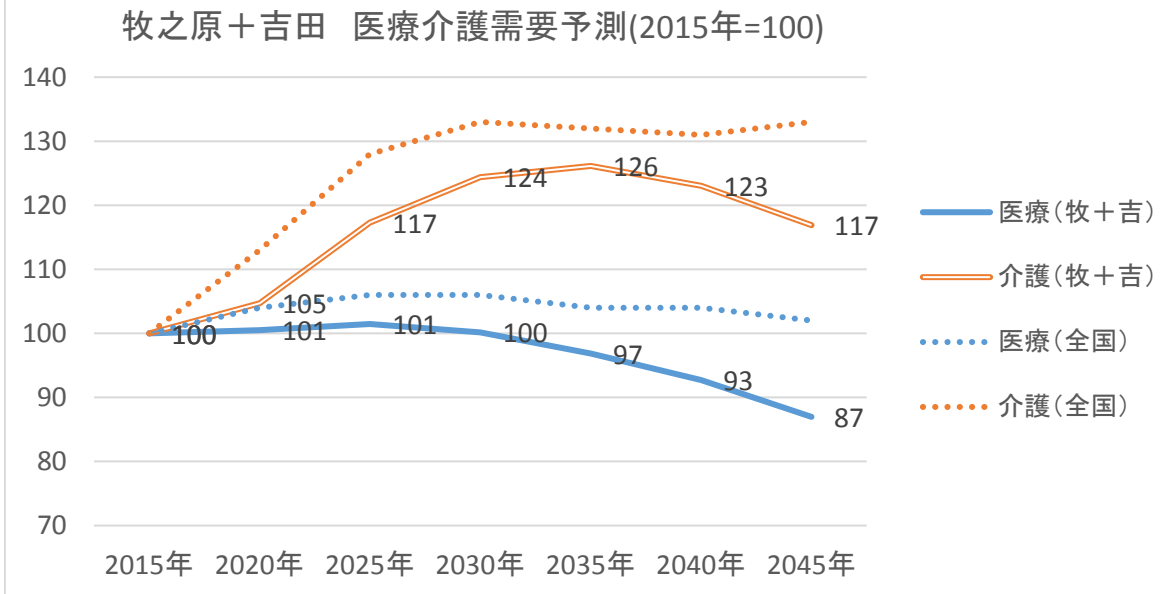
ということになる。しかし実際のベッド稼働状況は次のとおりである。



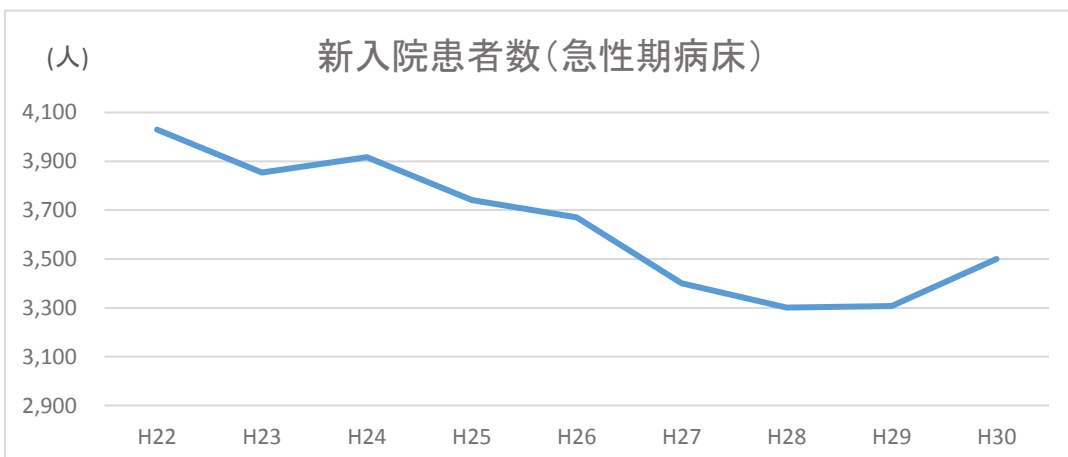
◆今年の夏場は、昨年同期と比べて稼働が高かったため、相対的に見れば今年の冬も昨年の以上の稼働となることが予想される



◆2025年には人口が7万人を割り込むと予測



◆人口は減少傾向にあるが、医療需要は2030年まで減少しない



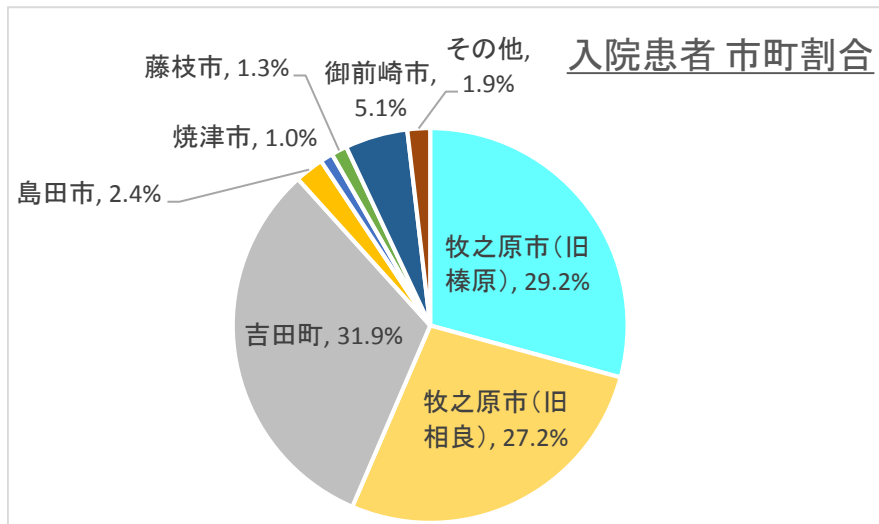
◆急性期病床の新入院患者は徐々に一昨年から徐々に回復

《考察》

(1)今年度の新入院患者数は昨年と比較して6%程度の増加が予測され、冬場の新入院患者を330人/月とすると、オーバーベッドの状態が数ヶ月続くことも考えられる。今年の夏場は満床状態が続き、入院を制限せざるを得ない状況であった。実際のところ、近隣病院も満床の状況では救急搬送をファーストタッチしても、これまでのように転送受け入れ可能な病院探しに大変苦慮することが予想される。住民の安全、生命を守るためには、ある程度余裕を持った病棟運営が望ましいと考える。

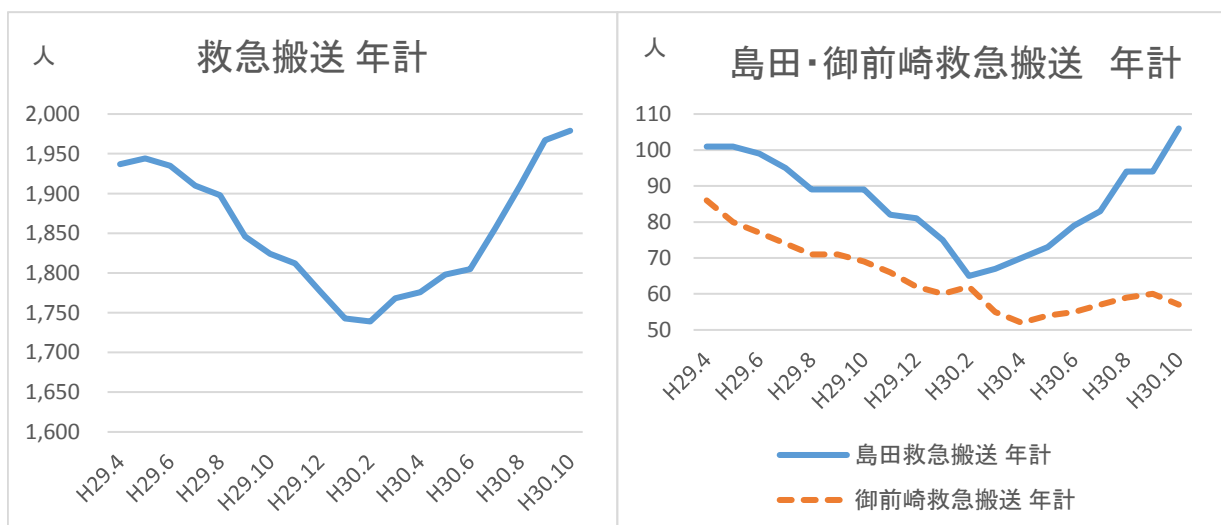
(2)また、牧之原市の高齢化率は30%を超え(H30.10現在)、高齢者が公共のバスを利用すると島田、藤枝までは1時間弱掛かる。焼津には直接のバスがない。駿河湾、大井川、牧之原台地に囲まれた陸の孤島のような地域では、行政区域を越えて、いざというときに地域住民が利用しやすい体制を整えていかなくてはならないと考える。近隣病院には連携、協力をいただいているものの、もう少し自院で対応すべく、目標として流出率を3割台に抑えたい。そのためには医師を招聘して各診療科を充実する必要がある。

<入院患者の市町割合>



◆入院患者の12%は牧之原市・吉田町以外の患者

<救急受入件数の傾向>



◆循環器内科医師が赴任して、救急搬送件数は増加傾向

《結論》

◎2025年に向けて牧之原・吉田の人口は減少するが、医療需要予測は2030年までは減少しない。これらのデータや実績から、当面は急性期病床を必要とし1病棟(50床:スタッフ確保状況により、30~40床での開棟もあり)を開棟するが、2025年の必要病床数を念頭に入れつつ、将来的に地域包括ケア病床への転換も視野に入れながら開棟していきたいと考えている。(開棟時期としては、H31.2以降を検討)